

II 事業の概要

2019年度に行われた学校法人及び設置学校における事業の概要は、次のとおりです。

1 重点施策の推進

(1) 第2期中期計画の実施～長期ビジョンの実現に向けて

「学校法人明治大学長期ビジョン」の具体化及び本学創立140周年を見据えて、「第2期中期計画」(2018～2021年度)を策定しました。

2019年度は、2年間の計画の進捗状況を確認するために年度末に「中間総括」を作成し、理事会で現状を確認・共有することによって、計画後半のスムーズな事業遂行に繋げることを確認しました。

本学構成員が中期計画を共有し、想いを一つにすることによって、引き続き長期ビジョンの実現を目指します。

中期計画の進捗・達成状況については、以下のリンクからご覧ください。

※https://www.meiji.ac.jp/chousaka/middleterm_plan_ver1.html

(2) 教育研究施設設備計画の推進～和泉キャンパス新教育棟(仮称)整備計画

和泉キャンパスにおける教室数の不足や教育施設の老朽化、さらには社会の激しい変化に対応し、総合的な知の基盤である「教養教育」を展開する『場』の創出に向け、「和泉キャンパス新教育棟(仮称)整備計画」が始動しました。創立140周年記念事業として、2022年春の供用開始を目指します。



(3) 戦略的広報活動の展開～ブランド力を高める広報の推進

広報戦略本部を中心に、教育研究活動及びこれに付随する諸活動に関する情報等を広く学内外に発信するための広報戦略基本方針を策定するとともに、それに基づく最重点項目を設定し、本学のブランドを高

める広報活動を推進しました。「明治大学広報」、広報誌「明治」等の紙媒体のほか、ホームページ、SNS等各種媒体を通じた情報発信、メディア・記者に対するプレスリリース等により、“旬(しゅん)”な明治大学の情報を学外に発信しました。

① 新イメージムービーを公開

「キャンパスは世界～Go Forward, Go Global～」と題した本学イメージムービーを公開しました。動画の一部はマイクロドローンを使用して撮影し、校舎内を縦横無尽に飛び回り、学生ギリギリに迫るダイナミックな動画となっています。なお、総合バージョンの他、駿河台、和泉、生田、中野の各キャンパス紹介バージョンも公開されています。

※https://www.meiji.ac.jp/koho/campus_guide/index.html

② インナー向け広報の強化

本学学生向け情報コンテンツである「MEIJI NOW」、週3～5回更新を続け、時期に合ったトピックスを提供しています。開設後3年を迎え、2019年度末で96万回以上のアクセスがありました。

(4) オール明治で前へ～ステークホルダー(校友会・父母会)との連携

① 校友会との連携

ア おかえりなさい！母校へ！～第22回ホームカミングデー開催

10月、駿河台キャンパスにおいてホームカミングデーが開催され、4,000名を超える校友やその家族等が来場しました。

イ 第55回全国校友千葉大会

10月、日本全国と海外支部から、約1,600名の校友が参集し、旧交を温めるとともに、新たな絆も深めました。

※<https://www.meiji-shikon.net/>

② 父母会との連携

ア 父母会総会・父母懇談会

明治大学連合父母会が主催した父母会総会・父

母懇談会が5月から7月にかけて、全国 57 地区父母会で開催されました。懇談会では、学生生活、学業成績、就職等に関して、父母と大学担当者との間で熱心な個別相談が行われました。

イ 父母対象の就職懇談会

首都圏 11 地区の父母会は合同で、学部3年生の父母を対象とした就職懇談会を 10 月に本学アカデミーコモンで開催し、父母約 650 人が参加しました。1989年から続けられている懇談会は、就職に対する父母の理解、子供への支援の在り方を考えてもらう貴重な場となっています。

(5) 多くの方々からの熱いご支援～募金活動の展開

① 寄付の実績

2019 年度に本学が受けた寄付受け入れ実績は、7億 5771 万 5074 円(前年度比 108.3%増)でした。寄付金の主な内容については次のとおりです。

ア 明治大学創立 140 周年記念事業募金

2021 年に本学が創立 140 周年を迎えるに際し、2019 年 4 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日まで周年記念事業(和泉キャンパス新教育棟(仮称)建設ほか)の展開を目的として寄付を募っています。

2019 年度は 1089 件、3億 2764 万 2310 円の寄付を賜りました。10 月のホームカミングデーでは、この募金を主に受付し、当日寄付者には休憩及び交流スペースとして「サポーターズラウンジ」をご利用いただきました。

なお、寄付の顕彰として、寄付者銘板のほか、新教育棟大教室兼ホールの座席に個人芳名プレート設置並びに寄付金額により各教室の出入り口横にも顕彰プレート設置など、周年事業募金独自の顕彰制度を用意してご支援を仰いでいます。

イ 未来サポーター募金

奨学、国際化、研究、スポーツ及びキャンパス整備の5つの資金(使途)から構成される募金制度です。主な募集対象者は校友、教職員、一般篤志家の個人・団体・法人で、寄付金の用途を寄付者自身が上記5つの中から選択することができるのが特徴です。

2019 年度は 3200 件、1億 9016 万 2250 円の寄付を賜りました。なお、寄付による書籍等の販売収益からなる「本棚募金」寄付金約 338 万円も含まれています。11 月には、各資金における前年度の活用結果をまとめた「活動報告書」を寄付者の方へお送りし、寄付金の活用結果を報告しました。

また、寄付に関する情報や寄付者芳名等を掲載した「明治大学広報募金特別号」を9月と1月に発行し、全国の校友へ向けて送付しました。

ウ 教育振興協力資金

本学の教育・研究の充実・発展に必要な経費として活用するための資金であり、主に学生及び生徒の父母を対象に募集しています。

2019 年度は 504 件、9310 万 6192 円(前年度比約 1411 万円増)の寄付を賜りました。

エ その他の寄付金

480 件、1億 4680 万 4322 円の寄付を賜りました。主な内訳は、学術研究奨励寄付金に約 7356 万円、校友会奨学金に 2420 万円、法曹会基金に約 817 万円などです。

また、2019 年度には、「障がい学生支援推進資金」が新たに募集を開始しました。

② 寄付者顕彰制度

本制度は、本法人に対する寄付金の総額に応じた顕彰を行うべく、2015 年度に新しく制定されました。対象者は本法人が募集する各種寄付制度への寄付の累計額が 100 万円以上の個人で、6 月には累計額 500 万円以上の方にお越しいただき、寄付者交流会を開催しました。

また 11 月には、特別紫紺賛助員(累計1億円以上の寄付者)、紫紺賛助員(累計1千万円以上の寄付者)をお招きし、本学の現状や将来像を説明し、本学の今後のありようについて助言をいただく場として、「寄付者アドバイザリーボード」を開催しました。

※<https://www.meiji.ac.jp/bokin/index.html>

(6) 創立140周年記念事業

① コンセプト「前へ—『個』を磨き、ともに持続可能な

社会を創る―」が決定

5月に明治大学創立140周年記念事業実行委員会において、記念事業の実施に向けたコンセプトを決定しました。これは、本学の教学長期ビジョン「グランドデザイン 2030」(2019年12月公表)のコンセプト及び本学が果たすべき役割と同一の内容となっています。コンセプト決定を受けて、140周年記念事業実行委員会のもとに設置された4つの分科会において、コンセプトに基づいた記念事業の検討が具体的に進められていく予定です。

② ロゴマークが決定

10月、明治大学創立140周年記念事業実行委員会において、140周年記念事業ロゴマークを決定しました。

ロゴマークは、本学の長期ビジョン「世界へ―国際人の育成と交流のための拠点」をイメージし、大学シンボルマークと地球に見立てた0(ゼロ)を重ねて、「世界をリードする明治大学」を表現しました。さらに、140周年記念事業全体のテーマカラーとして、空の色「ホライズンブルー」が選出されました。



※ <https://www.meiji.ac.jp/140th/>

2 教育改革と教学運営体制の整備

(1) 「グランドデザイン 2030」を発表

12月、教学の長期ビジョンである「グランドデザイン 2030」を発表しました。これは、2031年の本学創立150周年を見据え、建学の精神、理念、本学の使命を再確認すると同時に、10年後の本学の将来像(ビジョン)と、それを実現するための重点施策を示すものと位置づけています。今後は、本法人が策定する次期長期ビジョンにおいて、本学の教学長期ビジョンとして、中期計画等へ反映されていくこととなります。

※<https://www.meiji.ac.jp/gakucho/granddesign2030/index.html>

(2) 教員組織の編制

本学の「教員任用計画の基本方針」において、教員組織の編成方針として、「各学部・研究科の教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施等の各種方針を実現するとともに、多様な研究、国際連携及び社会貢献活動を展開するため、ダイバーシティや男女共同参画推進の基本理念を踏まえ、男女比、年齢及び外国人教員の構成にも配慮した教員組織を整備する。」と示しています。このことに基づき、2019年度も任用計画の立案及び採用を行いました。

(3) 教育開発・支援センターの取り組み

本学の教育理念などへの理解を促し、自己啓発意

識を高めることなどを目的に、今年度採用された教員を対象とした「新任教員研修会」を2回にわたり開催しました。教学運営体制、明治大学の沿革、研究活動の現状、Oh-o!Meiji システムが創る新しい教育環境、入学試験の概要、就職キャリア教育などについて説明を行うとともに、人権講演会も実施されました。

(4) 内部質保証とIR(Institutional Research)環境の整備・推進

① 自己点検・評価

2019年度自己点検・評価(2018年度報告書)は、自己点検・評価全学委員会委員長である学長から評価委員会委員長である理事長に12月に提出されました。これを受け、学外有識者等も加わる評価委員会を1月に開催し、本学における内部質保証システムの有効性や学修成果の可視化の適切性などを議論しました。その評価結果は、報告書の一部として本学ホームページに公開しています。

※ <https://www.meiji.ac.jp/koho/about/hyouka/>

② IR環境の整備

2019年度も引き続き改善・改革を推進し、IRを活用して教育の検証を行いました。

3 教育関連活動

(1) 教育内容・方法の見直しと成果指標の確立

① 大学全体の3ポリシー及び学部等の3ポリシーの検証

策定した全学3ポリシー(「学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)」、「教育課程編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)」、「入学者の受入方針(アドミッション・ポリシー)」と、各学部が定める3ポリシーの連関について検証するなど、見直しの検討に取り組みました。

※<https://www.meiji.ac.jp/koho/disclosure/policy/aim.html>

② 学習成果の測定方法

すでに学習成果の測定が行われているプログラムの測定手法を参考に、学習成果の測定方法の開発に取り組みました。

(2) 総合的教育改革の実質化

① 科目ナンバリング制度の導入

本学が開講する全ての授業科目を「学問分野」・「レベル」等で分類し、各々に科目ナンバーを付番することで、授業科目個々の学問的位置づけを示すことにより学生の計画的な学修への一助とすること、海外の大学との連携を容易とするためのツールとすることを目的として、科目ナンバリング制度を導入しました。

(3) 大学院、専門職大学院の強化と充実

① 学部・大学院の接続・連携強化を促進

科目ナンバリング制度の導入により、学部から大学院までのカリキュラムの体系化及び学部・大学院の接続・連携強化を促進しました。

② 法曹養成に向けて連携強化

専門職大学院法務研究科と法学部は、学生の司法試験受験までの時間的・経済的負担を緩和し、相互に連携したカリキュラムを編成し、効果的な法曹教育を行うことを目的として「法曹養成連携協定」を締結しました。

(4) 意欲ある学生の安定的な確保

① 時代の要請に対応する入試改革

「2021年度明治大学一般入試について(予告)」を公表し、「大学入学共通テスト」の利用などについてお知らせしました。

② 付属校との連携

付属校である明治高等学校と大学が合同で設置している委員会において、生徒の学部選択につながる高大連携事業の見直しに係る検討を行いました。

(5) 大学間連携による教育の充実

① 新たに3大学と連携協力協定を締結

ア 福井大学(2019年5月)

イ 山形大学(2019年12月)

ウ 山梨大学(2020年3月)

② 聖マリアンナ医科大学

2013年度に大学間交流に関する包括協定を締結した聖マリアンナ医科大学とは、共同研究会を2019年9月に実施し、両大学の共同研究に関する経過報告が行われました。

(6) 図書館の充実

本学の教育・研究支援の中核機関であるとともに、生涯学習時代における社会貢献の拠点として活動を行っています。

読書に一層興味を持ち、図書館を積極的に活用してもらうことを目的として、「第10回図書館書評コンテスト」などを開催しました。また、リテラシー教育として、全学共通総合講座「図書館活用法」、館内で開催する図書館資料利用講習会なども恒常的に開催しています。

※ https://www.meiji.ac.jp/koho/meidaikouhou/202003/p07_01.html

(7) 国家試験合格状況

試験名	2019年度
司法試験	26名
公認会計士試験	87名
国家公務員総合職	19名

※合格者数は、現役学生、卒業生及び関係者を含みます。

4 研究関連活動

学長を機構長とする研究・知財戦略機構(以下「機構」という。)は、研究活動を統括し、世界のトップユニバー

シティを目指し、世界的水準の研究を推進するため、研究拠点の育成、研究の国際化の推進、成果の社会還

元、を目的としています。

機構の下に設置されている「研究企画推進本部」及び「研究活用知財本部」を両翼として様々な研究政策を実施し、産官学連携活動を推進しました。さらに付属研究機関・付属研究施設等において研究活動を推進しました。2019年度の主な研究活動は次のとおりです。

(1) 拠点型事業の獲得・発展・継続～各インスティテュート、研究センター等の活動

拠点型研究として、以下のインスティテュート等において研究活動を推進しました。また、新たに2つのインスティテュートを設置した他、既存の専門分野だけでは確立できない分野融合型拠点構築を目指し、新たに学際高等研究院を設置しました。

<インスティテュート>

- ① 先端数理科学インスティテュート(MIMS)～数理科学の国際拠点
※<http://www.mims.meiji.ac.jp/index.html>
- ② バイオリソース研究国際インスティテュート(MUIIBR)～クローンブタで医療に貢献
※<http://muiibr.com/>
- ③ 国際武器移転史研究インスティテュート
※<http://www.kisc.meiji.ac.jp/~transfer/>
- ④ 生命機能マテリアル国際インスティテュート(新設)
※http://www.isc.meiji.ac.jp/~a_lab/institute/
- ⑤ 再生可能エネルギー研究インスティテュート(新設)
※<https://www.meiji.ac.jp/research/mrel/index.html>

<付属研究施設>

- ① 黒耀石研究センター
※<https://www.meiji.ac.jp/cols/index.html>
- ② 植物工場基盤技術研究センター
※<https://www.meiji.ac.jp/plant/index.html>
- ③ 地域産学連携研究センター(生田連携センター)
※<https://www.meiji.ac.jp/cii/index.html>

(2) 研究活動の適正化に向けた研究不正防止体制の整備

文部科学省のガイドラインに基づき、規程を定め、研究倫理教育及びコンプライアンス教育を実施しています。※<https://www.meiji.ac.jp/osri/guideline/compliance.html>

また、研究不正通報等の受付窓口を法律事務所に委託するとともに、不正防止計画推進部署として駿河

台キャンパスに「研究倫理オフィス」を開設しています。

※https://www.meiji.ac.jp/osri/ethics_office/outline.html

安全保障輸出管理規程施行に伴い、2019年度より情報や物品のやり取りを伴う国際的な研究活動を安全かつ円滑に遂行できる体制を整備しました。

※<https://www.meiji.ac.jp/koho/about/export/research/research.html>

(3) 外部研究資金の獲得

公的資金を原資とする研究費を中心に、外部研究資金の獲得拡大に向けた支援を行っています。加えて、大学から予算措置される研究所研究費、大学院研究科共同研究、新領域創成型研究・若手研究、国際共同研究等があり、研究活動の推進・活性化を図っています。

※<https://www.meiji.ac.jp/research/promote/present.html>

① 2019年度「科学研究費助成事業」

本件の採択件数は新規と継続分をあわせて305件、金額は6億7,145万円でした。分野別ランキング「中区分別採択件数上位10機関」では、本学は「03. 歴史学、考古学、博物館学およびその関連分野」において7位(私立大学では2位)及び「06. 政治学およびその関連分野」において8位(私立大学で4位)にランクインしました。

(4) 「明治大学アカデミックフェス2019」の開催

「魅力ある社会をつくるための明治大学の次の一手」について、同時多発的に多様な領域をテーマとしたディスカッションを行い、新しい「知」の在り方を楽しく探るアカデミックフェスが11月に開催され、学生、研究者ら1,000人以上が駿河台キャンパスに会場しました。「数理科学する心」、「ダイバーシティ・マネジメント」、「折紙工学の世界」など、文理の枠を超えた19のテーマについて、本学の教員がコーディネーターとなりプログラムが実施されました。

※ <https://www.meiji.ac.jp/gakucho/mauf2019/>

(5) オープンアクセス方針の策定

本学において創生された研究成果を広く学内外に公開し、そのアクセスを恒久的に保証することにより、学術研究のさらなる発展に寄与し、社会の持続的発展に貢献することを目的として、オープンアクセス方針を策定しました。

※ <https://www.meiji.ac.jp/koho/institution/6t5h7p0000256xtv.html>

5 社会連携・社会貢献

(1) 社会貢献を進めるために～社会連携機構

本学における教育研究活動を通じた地域連携活動の支援、生涯学習機会の提供等を推進することによって、地域社会の活性化及び社会の発展に寄与することを目的として設置されている機関が社会連携機構です。社会連携機構は、生涯教育の充実を図るリバティアアカデミー及び地域連携を推進する地域連携推進センターから構成されています。

① 生涯学習の拠点～リバティアアカデミーの展開

リバティアアカデミーは、公開講座を中心とした生涯教育及び資格取得等職業能力の再開発・向上を図るための教育活動の役割を担っています。2019年度も「本学の教育・研究成果」を継続的・体系的な公開教育プログラムとして産業社会や地域社会に提供し、大学の保有する様々な知的資産とその環境を広く市民に開放することを通して「開かれた大学」としての姿を追求してきました。駿河台、和泉、生田及び中野キャンパスの4拠点で、教養・文化、ビジネス、資格・実務、語学、特別企画、オープン講座等、年間約440講座を開講し、約1万8000名が受講しました。

※<https://academy.meiji.jp/>

② 地域連携推進センターの展開

地域連携推進センターは、本学が国・地方公共団体、産業界、地域住民等からの幅広い要請に応え、地域社会と連携して地域人材の育成や地域課題の解決を図ることにより、本学における教育研究の発展と地域社会への貢献に寄与することを目的としています。創立者出身地3地域(鳥取県、山形県天童市、福井県鯖江市)やキャンパス設置自治体をはじめ、様々な自治体等と連携して公開講座を開催するなど、地域活性化のための連携事業を展開しました。

※<https://www.meiji.ac.jp/social/japan/chiikirenkei/chiikirenkei.html>

(2) 博物館の充実

本学の教育・研究成果を社会に還元する学内共同利用機関として、学内外の諸機関等と連携した展覧会、公開講座等多彩な教育・普及活動を展開しており、年間来館者は10万人を超えています。

2019年度は、特別展「見えているのに見えていな

い！立体錯視の最前線」及び展示会「素晴らしき古墳との出会いー大塚初重スケッチ絵画展」、「今蘇る！琵琶湖に君臨した王 雪野山古墳展」、「植村直己さんがイノチかけてつかんだコトバ」等を開催しました。

その他、シンポジウム、公開特別講義、南山大学との収蔵資料公開展示などを実施しました。

※<https://www.meiji.ac.jp/museum/index.html>

(3) グローバル連携の推進

本学は2010年度から国連アカデミック・インパクト(U-NAI)に参加しています。また、持続可能な17の開発目標(SDGs)の達成に向けて、2019年度も難民学生の受け入れや、多様化する地球規模課題に対応・解決できる人材の育成を目的とした「国際協力人材育成プログラム」を実施するなど、多角的な取り組みを行いました。

※https://www.meiji.ac.jp/gakucho/SDGs_index.html

(4) 震災復興支援

震災等復興活動支援センターは、本学が指定した地震、暴風、豪雨、洪水等の自然災害における被災地及び被災者の復興活動を支援対象としています。現在、同センターの支援対象としている東日本大震災、熊本地震、北海道胆振東部地震、西日本豪雨の被災地に加え、令和元年台風15号、台風19号の被災地をセンターの支援対象に追加しました。

2019年度も、学生ボランティアによる被災者支援や震災の風化を防ぐことを目的に、震災等復興活動支援センターにおいて様々な支援活動を行いました。

※<https://www.meiji.ac.jp/reconstruction/index.html>

- ① 宮城県南三陸町及び福島県南相馬市における学習支援活動
- ② 宮城県丸森町における台風19号被災者支援
- ③ 静岡県沼津市における公認ダイビングサークルRocoの海底清掃活動

(5) マンガ図書館

マンガ、アニメ等の資料を収集し、これを公開することを目的として設置され、米沢嘉博記念図書館(本学猿楽町校舎)及び現代マンガ図書館(東京都新宿区鶴巻町)をもって構成されています。2019年度は、現代マンガ図書館を本学駿河台キャンパス内に移転す

ることを決定し、2020 年秋以降、米沢嘉博記念図書

館と複合的な運営を行う予定です。

6 国際連携

2019 年度も、世界に羽ばたき、社会と世界をリードする人材教育の実現を目指して、国際化に関する取り組みを積極的に推進しました。

(1) 「スーパーグローバル大学創成支援」事業(SGU)

本学の取り組み「世界へ！ MEIJI8000 「学生の主体的学びを育み、未来開拓力に優れた人材を育成」が、2014 年に文部科学省スーパーグローバル大学等事業「スーパーグローバル大学創成支援」のタイプB「グローバル化牽引型」に採択されました。これを受け、2019 年度も「主体的に学び、考え、行動し、多様な価値観の中で、新たな未来を切り拓くグローバル人材（卒業生毎年 8,000 人）」を育成し、世界に送り出していくべく、積極的に事業を推進しました。

(2) 「大学の世界展開力強化事業～アジア諸国等との大学間交流の枠組み強化～」

2016 年度に採択された本構想は、CLMV諸国の実態や実状に鑑み、日本の過去の教訓を踏まえた「先進的なアジア型の将来都市構想」と、これを実現する「共創的教育システム」を創造することを目的としています。2019 年度も、政治経済学部、理工学部・理工学研究科及び情報コミュニケーション学部を中心に、「共創FDワークショップ・CLMV学生会議」を、タイのアセアンセンターで開催するなど、積極的な活動を実施しました。

(3) 戦略的提携校政策～協定校・協定機関の拡充～

海外の大学等との協力・協定については、2019 年度も積極的に新たな協定を締結し、2020 年3月末時点で 55 カ国・地域、354 大学と協定を締結しており、うち 44 カ国・地域、260 大学と学生交流のある協定を締結しています。

(4) 外国人留学生の受入れ・学生の海外送出し強化

2019 年度の外国人留学生数は 2,320 名(学部: 1,328 名, 大学院: 658 名, 短期プログラム: 334 名), 海外派遣学生数は 2,326 名(長期(3か月以上): 395 名, 短期(3か月未満): 1,931 名)となりました。(2020 年3月現在)

優秀な海外からの留学生を獲得するために、入口

から出口までの一貫した支援政策に基づき、Web 出願、戦略的広報のための Web ページの活用、魅力あるカリキュラムの整備、就職支援プログラムなどを展開しました。

海外留学を目指している学生には、留学相談(カウンセリング)、留学助成制度、留学説明会、英語学習プログラムなど、多様な支援を実施しました。

また、関係強化及び学生交流の促進を目的に、本学と西シドニー大学(オーストラリア)の両大学内にサテライトオフィスを設置しました。

(5) 教員のモビリティと教育の質向上

① 明治大学アセアンセンター

2016 年度採択の「CLMVの持続可能な都市社会を支える共創的教育システムの創造」の展開拠点として活用されているほか、昨年度に引き続き遠隔授業、短期学生交流プログラムなどを実施しました。

② 国際FD研修

英語で授業を行う教員向けに、カリフォルニア大学アーバイン校から講師を招き、「授業英語化のためのワークショップ」として、FD研修を実施しました。参加者はその教授法をワークショップ形式で学び、それぞれの講義に活かしています。

(6) 国内異文化交流環境の整備

① 明治大学グローバル・ヴィレッジ(Meiji Global Village:通称MGV)竣工

和泉キャンパスに、最新の国際混住寮である「MGV」が誕生し、2019 年度から利用を開始しました。学生の居住の場のみならず、国際化の推進、共創的学習・教育の推進の一環として、外国人留学生と日本人学生が学習スペースや交流スペースを共にしながら生活し、国際コミュニティを形成していく「学びの場」として位置付けられています。寮生としてMGVに住みながら他の寮生を支援するレジデント・アシスタント(RA)が中心となって、各種交流プログラムを企画・立案し、混住寮の活動を活性化させています。

※<https://www.meiji.ac.jp/campus/apartment/mgv.html>



(7) 短期留学プログラム

2019 年度も海外の学生に長期休暇を利用して日本を学んでもらえるよう、下記の3つのプログラムを実施

しました。日本語はもちろん、法律、政治経済、そしてポップカルチャー、様々な体験学習と講義を組み合わせた充実したカリキュラムを用意し、短期間でも満足してもらえる内容となっています。

※https://www.meiji.ac.jp/cip/english/programs/index_jp.html

- ① Cool Japan Summer Program
- ② 日本語短期研修プログラム(夏期)
- ③ Law in Japan Program

7 学生生活支援

(1) 奨学金の充実

将来の有為な人材として期待される学生が修学に専念できる教育環境を整えるため、奨学金制度に基づき、給費奨学金・貸費奨学金等各種奨学事業を実施しました。

2019 年度は、新たに入学前予約型給費奨学金「おゝ明治奨学金」を 2020 年度に新設することを決定しました。本奨学金は、本学へ入学を希望する、学業優秀でありながらも、経済的に困窮している受験生に、入学時及び入学後の経済支援を行うことを目的としています。

(2) 学生参加型プログラムへの支援

① ボランティアセンター(VC)

4キャンパスに設置されているボランティアセンターは、本学の学生に対するボランティア活動の支援を全学的に推進することにより、学生の社会性及び自主性を涵養して、社会に有用な人材を育成することを目的としています。

駿河台キャンパスでは「防災」、和泉キャンパスでは「福祉」、生田キャンパスでは「サイエンス」、中野キャンパスでは「社会連携」をそれぞれテーマとし、学内・学外での活動、地域との交流、復興支援など、特色ある活動を展開しました。

※<https://www.meiji.ac.jp/campus/volunteer/index.html>

② M-Navi プログラム(Meiji Navigation Program)の推進

学部や学科で学び身に付けていく「基礎学力」や「専門知識」に加えて、それらを上手に活用していくための「力」(社会人基礎力)を身につけるためのナビゲーターの役割を果たす学生支援プログラムの一つです。

2019 年度は、「神宮へ行こう(東京六大学野球観戦)」、「神輿を担ごう」、「お坊さんと語ろう!遊ぼう!ヨガをしよう!」、「メディアの世界を知ろう」、「大使館見学」等のプログラムを実施しました。

※<https://www.meiji.ac.jp/campus/mnp/2019.html>

(3) 学生相談室の活動

相談内容の約3分の2が精神衛生に関わるものであり、SNSのトラブルに関する相談など社会情勢の変化を反映して相談内容も多様化・複雑化していることから、学生相談機能の拡充を図っています。

また、憩いの場や交流の場の提供・心身の健康増進などを目的として、各種行事を開催しました。

※<https://www.meiji.ac.jp/soudan/index.html>

(4) 観る人に感動を〜スポーツ関係

① 各部の活躍

ラグビー部	第 20 回東日本セブンズラグビーフットボール大会 優勝(3年連続) 関東大学ラグビー対抗戦 優勝 第 56 回全国大学ラグビーフットボール選手権大会 準優勝
-------	---

硬式野球部	東京六大学野球春季リーグ戦 優勝 第 68 回全日本大学野球選手権 優勝(38 年ぶり6回目) 森下暢仁投手(政経4)が広島東洋カープから1位指名 伊勢大夢投手(営4)が横浜 DeNA ベイスターズから3位指名
サッカー部	第 93 回関東大学リーグ戦 優勝(3年ぶり5回目) 第 43 回「総理大臣杯」全日本大学サッカートーナメント 優勝(2年連続) 第 68 回全日本大学サッカー選手権大会 優勝(10 年ぶり3回目)
競走部	第 96 回東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝) 6位(シード権獲得)
ゴルフ部(女子部)	第 42 回全国女子大学ゴルフ対抗戦 優勝(創部初)
スケート部	第 88 回全日本フィギュアスケート選手権大会 樋口新葉選手(商1) 女子シングル2位
射撃部	アジア選手権 平田しおり選手(政経2) 銅メダル獲得 東京五輪日本代表に内定
拳法部	第 59 回全日本拳法個人選手権大会 木村柊也選手(文1) 優勝 第 35 回全日本学生拳法個人選手権大会 木村柊也選手(文1) 優勝
端艇部	第 97 回全日本選手権大会 男子舵手なしペア 優勝
第 30 回ユニバーシアード競技大会 本学学生が5種目でメダル(金メダル3種目, 銀メダル1種目, 銅メダル1種目)獲得	



② スポーツ推進本部を設置

本学のスポーツブランドの一層の強化を図るため、これまで以上に法人と教学が一体となり、スピード感のあるスポーツ推進政策を策定・実行することが求められており、これらに対応することを目的として、「明治大学スポーツ推進本部」が9月に発足しました。今後は、体育会のガバナンス強化とともに、全学的なコンセンサスを得ながら「大学スポーツにおける先進的モデル」を企画・立案し運営する主体として、スポーツ推進本部が機能することとなります。

(5) 就職・キャリア形成をバックアップ

① 就職キャリア支援センター

本学の学生に対する就職支援及びキャリア形成支

援を推進することにより、学生の職業観及び職業に関する知識・技能を涵養して主体的に進路を選択できる能力の育成を図り、社会に有用な人材を輩出することを目的としています。

2019 年度も「就職進路ガイダンス」、「エントリーシート対策講座」、「業界研究セミナー」、「OB・OG懇談会」、「ALL MEIJI インターンシップ」、「納得就職支援セミナー」等を実施しました。

※<https://www.meiji.ac.jp/shushoku/index.html>

② インターンシップの充実

本学のインターンシップは、ALL MEIJI インターンシップ、自己開拓型インターンシップ(大学経由応募型と直接応募型)と大きく分けて3つ種類あります。

ALL MEIJI インターンシップは本学と受入機関の間で協定を結んだ上で実施しており、2019 年度も多数の企業等の協力を得て実施しました。

※<https://www.meiji.ac.jp/shushoku/intern/index.html>

③ 外国人留学生への就職サポート

日本国内で就職を希望する留学生に特化した就

職支援を手厚く行っています。

2019 年度も、日本での就職活動の基本的な進め方を指導する「就職・進路ガイダンス」をはじめ、様々な講座を開催しました。

※<https://www.meiji.ac.jp/shushoku/ryuugakusei.html>

8 男女共同参画と平等の実現

「明治大学男女共同参画推進基本計画」の実現に向け、様々な施策を推進するとともに、本学のすべての構成員が「違い」にかかわらず、キャンパスのあらゆる場において平等に活動し、尊重される環境の整備に取り組みました。

※<https://www.meiji.ac.jp/koho/diversity/>

(1) ダイバーシティ&インクルージョンの取り組み

多様な価値観を受容し、共に学び共創する大学を目指し、2018 年度に「明治大学ダイバーシティ&インクルージョン宣言」を公表し、「ダイバーシティ&インクルージョンプラットフォーム協議会」を設置しました。

2019 年度は、本学役員及び教職員を対象に、「誤解の多い働き方改革:生活改革との好循環を」と題した講演会を実施し、本学において多様な人材が活躍できる働き方の実現に向けて、多くを学ぶ機会となりま

した。

※<https://www.meiji.ac.jp/koho/diversity-and-inclusion/index.html>

(2) 次世代の女性研究者育成

次世代の女性研究者育成につなげるため、生田オープンキャンパス及び中野オープンキャンパスにおいて「女子大生による理系進路フォーラム」を開催し、女子中高生の理系進路選択について理解を深める機会を提供しました。

(3) レインボーサポートセンター

2020 年2月、本学の学生に対する多様な性に配慮した諸施策を推進することにより、性の在り方にかかわらず、すべての学生が適正に教育研究その他の活動を行うことのできる環境の整備並びにあらゆる多様性を受容・尊重できる価値観を有する人材の育成に資することを目的として設置されました。

9 入学試験関連

(1) 2020 年度入学試験志願状況

一般入学試験の志願者数は、一般選抜入学試験 55,637 人、全学部統一入学試験 20,056 人及び大学入学センター試験利用入学試験 27,342 人の合計 103,035 人となり、14 年連続で 10 万人を超えました。

※<https://www.meiji.ac.jp/exam/index.html>

(2) 2019 年度オープンキャンパス

受験生等に向けてキャンパスを開放し、大学生活の一端を体験してもらう「オープンキャンパス」を、駿河台・生田・中野の2キャンパスで8月に計7日間開催し、全日程とも事前参加登録制にもかかわらず過去最多となる約6万 4950 人の高校生や保護者らが本学を訪れました。

※<https://www.meiji.ac.jp/exam/event/opencampus/index.html>

(3) 2021 年度入試について

大学入学共通テストの実施などに伴い、本学の2021年度入試にかかる情報を公開しました。

① 「大学入学共通テスト」利用入試(仮称)を、全学部で実施します。

② 全ての入試区分において、JAPAN e-Portfolio は利用しません。なお、一般選抜では、Web 出願時に高校時代の主たる活動等を入力していただき、そのデータは、得点化せず、入学後の指導上の参考資料として利用します。

10 卒業・修了の状況

本学は、130年を超える歴史と伝統の中で、創立以来57万人を超える卒業生を輩出してきました。

2019年度は、各学部の卒業生7,071名(うち9月卒業248名)、大学院の修了生は博士前期課程678名

(うち9月卒業2名)、博士後期課程49名(9月卒業なし)、専門職学位課程239名(うち9月卒業59名)、高等学校・中学校の卒業生428名(高等学校256名、中学校169名)となりました。

11 教育研究環境の整備

本学のより一層の発展に寄与するため、教育研究環境の整備等を行いました。

引き続き、教学の要望、既存校舎の劣化度合、財政的支出のバランス、外的環境等を総合的に勘案しながら、

教育施設、研究施設、学生環境の整備を推進します。あわせて、安全かつ高度な教育研究環境を守るため、既存施設の修繕、改修を適切に実施していきます。

12 学校法人の管理・運営

(1) 新評議員88人が就任

本学の最高意思決定機関である評議員会を構成する評議員の任期が2020年2月23日で満了となり、2月24日、新評議員88人が就任しました。

新評議員の任期は4年間で、職務上の評議員を除き、2024年2月23日までです。

(2) 格付投資情報センターから「AA」の格付を取得

3月に、株式会社格付投資情報センター(R&I)から4回目の格付評価を受け、昨年と同じ「AA」[格付けの方向性:安定的]でした。本学の持つ教育・研究の質の高さと学生募集力、就職実績、卒業生の厚み、国際化推進・教育力の向上に向けた改革への取り組みなどが総合的に評価されたものです。

(3) 教育の情報化推進と情報環境整備

① 遠隔同時配信システム「Zoom」の導入

多様なラーニングスタイルを受容する学びの場の創出を支援するため、遠隔同時配信システム「Zoom」を導入しました。同システムの利用により、キャンパス間における同時中継授業の実現が可能となりました。

(4) 環境保全に配慮した大学の運営

2019年度も、環境保全にかかわる教育活動の一環として、教職員・学生へ環境問題・環境保全にかかわる情報とともに、本学の環境保全活動を紹介し、関心を高めるため、「ECO ACT MEIJI 明治大学環境展」を4キャンパスで開催しました。パネル展示、資料配布、環境に配慮した施設見学ツアーを実施し、地球温暖化、エネルギーなど、私たちを取り巻く環境問題や、

本学の環境保全への取り組みについてわかりやすく解説しました。

また、エネルギー使用量等の環境保全活動について、本学ホームページに公開しました。

※<https://www.meiji.ac.jp/koho/academeprofile/activity/environmental/6t5h7p00001q7gth.html>

(5) 防火・防災・危機管理体制関連

① 防災対策

大規模災害の発生等を想定し、学生用・教員用・職員用といったカテゴリーごとの災害発生時対応マニュアルに基づき、駿河台・和泉・生田・中野の各キャンパス、黒川農場及び明治高等学校・中学校において防災訓練等を実施しました。

② 情報システムにおけるセキュリティ対策の強化

2019年度も継続的にセキュリティレベルの向上に努めました。また、大学構成員全体(学生・教職員)への多要素認証導入を段階的に完結しました。

③ 危機管理広報の対応

大学役員・役職者や事務管理職らを対象に、大学に関わる事件・事故や不祥事の発生時に、的確な広報対応が取れるよう、日頃からの意識向上を目的とした「危機管理広報セミナー」を2019年度も開催しました。「危機対応と危機を起こさないための組織づくり」をテーマに、外部講師を招いて具体的な事例説明を受け、危機管理事案発生時における学内の広報体制を確認する機会となりました。

(6) 事務組織の改編

2019年度は以下のとおり事務組織を改編しました。

- ① 入学センター事務部の設置
- ② 管財部の設置

(7) 付属校・系列校政策

法人の健全な運営及び教育研究活動の永続的な発展のためには、学生の「数」と「質」の確保が不可欠です。学生の「数」と「質」の確保に向けた方策のひとつとして付属校・系列校政策が重要である、との認識を共有し、付属校・系列校強化推進について具体的に検討を行ってきました。推進にあたっては、学校種、

立地、規模、設置形態等の課題について慎重に見極めながら、あらゆる可能性を視野に入れた検討を継続しました。

(8) キャンパス・ハラスメント等相談体制の充実

社会情勢の多様化、複雑化により様々な悩みを持っている方が増え、職場での悩み、ハラスメントや就労に関するトラブル等、様々な問題についてメール又はFAXにより無料で相談できる「なんでも相談窓口」を11月に開設しました。学生、生徒、教職員、父母を対象に、英語でも相談可能となっています。

13 付属明治高等学校・中学校

(1) 国際教育の推進及び特色ある教育の実現

2019年度も下記のプログラムを実施しました。

① 英語力強化施策・グローバル化推進

- ア ヨーク大学(カナダ)3ヵ月海外研修
- イ 海外語学研修
- ウ 国内英語研修
- エ 「スピーチコンテスト」「イングリッシュ・プレゼンテーション」

② 高大連携の推進

- ア 高大連携講座
- イ プレカレッジプログラム
- ウ サマーセミナー、スプリングセミナー、ウィンターセミナー
- エ キャリアクエスト講座

(3) 教育研究環境の充実

本校の保守整備計画策定に基づき、補修工事を行いました。また、ICT教育環境の推進に向けて教室の整備も実施しました。

テニスコートについて、経年劣化により損傷が激しくなっていたため、人工芝の全面張替を行いました。

(4) 地域連携事業の展開

本校がある調布市とは、相互協力検討会での協議を通して、中学生の職業体験等、市との関連事業を増やしています。東京オリンピック・パラリンピックでは、自転車ロードレース競技におけるコースサポーターとして参加が決定しました。

(5) 安全安心な学校管理

2019年度は、「大規模地震対応マニュアル(高中・調布版)」の作成を行いました。今後も調布市と連携しながら、随時見直しを行います。

以上